



アジア国立公園会議準備会合の結果について（お知らせ）

平成 23 年	11 月	10 日 (木)
環境省	自然環境局国立公園課	
直 通	03-5521-8279	
代 表	03-3581-3351	
課 長	桂川 裕樹(内線 6440)	
課長補佐	高橋 啓介(内線 6444)	
課長補佐	並木 光行(内線 6438)	
担 当	井戸端清行(内線 6448)	

アジア地域におけるパートナーシップ（国際協力、国内の地域住民との協力、NGO や企業との協力）の現況と課題について議論を行い、文化的・自然的条件において共通点が多いアジア地域における保護地域に関するパートナーシップのあり方を検討することを目的とした標記会合を、平成 23 年 11 月 3 日(木)～7 日(月)に、環境省、世界保護地域委員会日本委員会 (WCPA-J) 及び国際協力機構 (JICA) 等の共催により開催いたしました。会合には、18 の国・地域の代表及び IUCN や研究機関の専門家など約 70 名が参加しました。

今回の会合では、平成 25 年に第一回目のアジア国立公園会議を開催することが全会一致で決定されました。また、参加者から日本政府（環境省）に対して、アジア国立公園会議を日本で開催し、併せて、三陸復興国立公園を通じて保護地域が復興に果たす役割や、地域社会との協働による効果的な国立公園管理のあり方などを紹介する機会とするよう要請がなされました。

1. 開催期間等

- ・期間：11 月 3 日（木・祝日）～7 日（月）
- ・場所：11 月 3 日 ホテルフロラシオン青山（東京都港区）
11 月 4 日～7 日 JICA 研究所国際会議場（東京都新宿区）
- ・主催：環境省、世界保護地域委員会日本委員会 (WCPA-J)、国際協力機構 (JICA)、国際自然保護連合 (IUCN) 保護地域プログラム、IUCN 世界保護地域委員会 (IUCN/WCPA)

2. 参加者

アジアの 18 の国・地域の国立公園等の保護地域を所管する政府機関の代表及び IUCN や研究機関の専門家など約 70 名

*参加国・地域（アルファベット順）：

ブータン、カンボジア、中国、香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モルジブ、ミャンマー、モンゴル、ネパール、パキスタン、シンガポール、スリランカ、台湾、タイ、ベトナム

3. 会合の概要

- (1) 会合1日目 (11月3日(木))
 - 主催者挨拶 (横光環境副大臣)
 - 基調講演
 - アジア保護地域パートナーシップ構築に向けての討論
- (2) 会合2日目 (11月4日(金))
 - 分科会 (国・団体からの報告)
 - 分科会 (各国の共通する課題についての討論)
- (3) 会合3日目 (11月5日(土))
 - 発表
 - アジア国立公園会議についての討論
- (4) 会合4日目 (11月6日(日))
 - エクスカージョン (富士箱根伊豆国立公園)
- (5) 会合5日目 (11月7日(月))
 - 全体会合 (議長総括のとりまとめ)

*プログラムの詳細については別添3を参照のこと

4. 主な成果

- ・平成25年に第一回目のアジア国立公園会議を開催することが全会一致で決定された。
- ・また、参加者から日本政府(環境省)に対して、アジア国立公園会議を日本で開催し、併せて、三陸復興国立公園を通じて保護地域が復興に果たす役割や、地域社会との協働による効果的な国立公園管理のあり方などを紹介する機会とするよう要請がなされた(なお、三陸復興国立公園はアジア各国にとって大変参考になる取組であるとの意見が多数あった)。
- ・さらに、平成26年に開催される第6回世界国立公園会議(開催地はオーストラリアとなる見込)において、アジア国立公園会議の成果を踏まえ、アジアの視点・意見を発表することとされた。

*今回の会合の結果は「議長総括」(別添1(仮訳)、別添2(原文))としてとりまとめられた。

2011年 11月 7日

アジア国立公園会議準備会合 議長総括（環境省仮訳）

キム・ソン・イル 教授
熊谷 嘉隆 教授

1. 背景

アジアの多くの国々は、自然環境を維持しつつ経済的発展を達成するための多大な努力を続けているが経済的発展と自然資源の保全の両立は多くの困難を伴う。保護地域はそれら経済的発展に影響を受ける一方で、発展に伴う課題に対し多大な貢献ができる可能性も有している。アジアは特筆すべき多様性を有する広範な地域であり、保全と発展の両立に向けて多くの革新的な取組を実施している。このような状況の下、名古屋で開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議及び愛知目標や、WCPA の組織がアジア全体で一つに統合されたことなどを踏まえ、アジア国立公園会議準備会合が、2011年 11月 3日から 7日にかけて東京で開催された。

18 の国/地域の代表者及び、IUCN、研究機関、援助機関、NGO からの専門家などの 70 名の参加者は、主催者である IUCN、WCPA、JICA、とりわけ日本の環境省の尽力に深謝するものである。

3. アジアの保護地域に関する議論

会合の参加者は、各国政府、NGO、研究機関、援助機関、IUCN/WCPA から招聘された。会合では、アジア地域の保護地域に関する考察がなされ、その課題と解決方法における多様さと共通項を明らかにした。参加者は、アジアの人々は自然に対して文化的・精神的価値を求めているという共通認識を持った。また、多くの国において、保護地域の管理運営は複数の政府機関に所管がまたがるなど複雑な形体となりがちであることから、それらの機関の間での調整が必要となることが認識された。さらに、アジア地域全体での多くの重要な活動や取組を明らかにするとともに、2013年にアジア国立公園会議を開催することを全会一致で支持した。

3. アジア国立公園会議に向けて

(1) 目的

アジア国立公園会議は次のことを目的とする。：

- アジアの保護地域における成功例を世界に紹介するとともに、その価値を示し、多様な関係者との関係を深めるとともに、支持の拡大に資する。
- アジア地域の経験を共有するとともに、世界全体への貢献を推進する。
- アジアの保護地域のための行動指針を定め、愛知目標と保護地域作業計画の目的の達成に向けた活動を推進する。
- 問題解決能力など、アジアの保護地域関係者の能力向上を推進する。

- 2014年の世界国立公園会議等の関連する地域レベルや世界規模の会合において、アジアの視点・意見を発信する。

(2) 提案されたテーマ

多くの参加者が、「つながり」がアジア地域の経験と課題を示す良いテーマであると考えた。ここでの「つながり」とは、「人と自然のつながり」、「文化的・精神的な価値と自然の価値とのつながり」、「保護地域とより広域の自然景観（陸域・海域）のつながり」などが含まれる。

(3) 提案された成果

- 愛知目標及び保護地域作業計画の達成、全アジア保護地域ネットワークの推進、国境をまたがる保護地域や姉妹公園締結の推進、情報共有などに向けたパートナーシップ
- 地域間協力の活性化、管理運営の改善、保護と発展の両立に向けたアジア保護地域憲章
- 愛知目標達成に向けた進捗状況、法制度や政策の分析、適正な管理がなされている保護地域の確認のための仕組と管理有効性の評価を含むアジアの保護地域についての現状並びに進捗状況の報告書
- 自然災害への対応、災害リスクの軽減、人と野生生物の軋轢、気候変動への適応、保全に対するインセンティブ（エコツーリズム等）、二次的自然地域の保全（SATOYAMAイニシアティブ等）などの課題に対する解決策を提供するためのアジア地域の優良事例集

(4) 主催者

近年示されてきた日本のリーダーシップを鑑み、参加者は日本政府（環境省）に対し、第一回アジア国立公園会議を2013年に日本で開催することを検討するよう強く要請した。また、それは、三陸復興国立公園を通じて保護地域が復興に果たす役割や、地域社会との協働による効果的な国立公園管理のあり方などを日本が示す良い機会であることが認識された。

参加者は、また、インドネシア政府からの貢献への表明を歓迎するとともに、アジア地域の他の国々及びIUCN等の団体に対して、アジア国立公園会議の準備に向けた技術や資金などについて協力を求めた。

さらに、関係者からの幅広く開かれた参画を確保しつつアジア国立公園会議の準備及び実行を担うための運営委員会を立ち上げることについての合意が得られた。

November 7th, 2011

Chairs' Summary Preliminary Asia Parks Congress

Dr. Seong-il Kim
Dr. Yoshitaka Kumagai

1. Background

Most Asian nations are working hard to achieve economic development while maintaining the quality of their environment. They often have difficulty in striking the balance between protection of the natural resources and development. Protected Area systems are affected by and can make a significant contribution to resolving development challenges. Asia is a vast region displaying extraordinary diversity and applies many innovative approaches to conservation and development. In this context and noting previous events such as CBD COP10 in Nagoya and the resulting Aichi Targets and the recent amalgamation of IUCN WCPA Asia as one region, the Preliminary Asia Parks Congress was held in Tokyo from November 3rd to 7th, 2011. The participants discussed common issues and ways to strengthen partnerships for Protected Areas (PAs) in Asia.

The 70 participants, representing 18 countries/territories and including experts from IUCN, academia, donors and NGO's deeply appreciates the support and commitment of Japan (Ministry of the Environment), working in partnership with IUCN, WCPA and JICA, in staging this Preliminary Asia Parks Congress.

2. Discussion on PAs in Asia

Participants from the congress were invited from government, NGOs, academia, donors and IUCN/WCPA. Throughout the Congress they provided perspectives on PAs across the region which revealed the diversity but also the commonality of their challenges and approaches. Participants reached common understanding that in Asian countries people connect cultural and spiritual values to nature. Participants recognized that in many countries governance of PAs falls under a number of models including those under the responsibility of several government agencies consequently requiring coordination amongst them. Participants also identified a number of key regional scale actions and interventions and expressed unanimous support for the concept of staging an Asia Parks Congress in 2013.

3. Moving forward to Asia Parks Congress

(1) Objectives

The Asia Parks Congress provides the opportunity to:

- Showcase the success and to advocate the values of PAs in Asia, reinforcing the relevance and broadening the constituency of support.
- Share experience across the region and particularly to promote what Asia can offer to the world.
- Set the Agenda for PAs in Asia and so facilitate action toward achieving the Aichi Targets and the objectives of the PoWPA

- Build regional capacity; find solutions to problems; energize and catalyze the PA community in Asia
- Provide regional perspective and input to relevant regional and global events including the World Parks Congress in 2014.

(2) Proposed Theme

Many thought that “**Connections**” would be a good theme that could cover many of the experiences and challenges in the region. Under this theme the emphasis is making connections: between People and Nature, between Cultural, Spiritual and Natural Values, and between PAs and the wider landscape / seascape, and many others.

(3) Proposed Outputs

- Partnership/s aimed at: contribution to Aichi Targets and PoWPA; supporting a Pan Asia PA Network; promotion of trans boundary PAs and sister parks; contribution to sharing information etc.
- Asian Philosophy / Charter of PAs which act as catalyst for cooperation, improved governance, and integration of conservation and human development
- Asian PA Status and Prospects Report including: progress toward Aichi Targets; analysis of laws and policies; Management Effectiveness evaluation and a system for recognizing well-managed PAs
- Regional Best Practice Tools for PAs as solutions to such challenges as: Natural Disaster Response, Disaster Risk Reduction, Human Wildlife Conflict, Climate Change Adaptation, applying incentives (e.g. ecotourism), Conservation of socio-ecological production landscapes(e.g. *Satoyama* initiative)

(4) Organizers

Recognizing the leadership already shown by Japan, participants call on the Government of Japan (Ministry of the Environment) to strongly consider hosting the first Asia Parks Congress on a date to be determined in 2013. The congress recognizes the opportunity for Japan to illustrate the role of PAs in post disaster reconstruction as in “Sanriku *Fukko* (reconstruction) National Park” as well as effective management in collaboration with local communities, etc.

Participants welcome the expression of commitment from the Government of Indonesia and call upon other countries within the region, IUCN and other groups to gather the necessary technical and financial and other resources necessary for the preparation of the Asia Parks Congress.

Participants agreed on the need to set up an Asia Parks Congress Steering Committee to prepare and implement the Congress ensuring open and informed participation.

アジア国立公園会議準備会合プログラム

〈11月3日〉会場:ホテルフロラシオン青山

開会式			
9:00～	主催者挨拶		環境副大臣 横光 克彦
	主催者挨拶		国際自然保護協会(IUCN)保護地域部長 Trevor Sandwith
10:00～	基調講演	保護地域: 変わりゆく地球のためのライフ・インシュアランス	国際自然保護協会(IUCN)保護地域部長 Trevor Sandwith
	基調講演	アジアの保護地域のためのWCPAの取組	ソウル大学教授 Seong il Kim
	基調講演	災害復興に果たす保護地域の役割	環境省国立公園課長 桂川 裕樹
「アジア保護地域パートナーシップ構築に向けての討論」 議長: Amran Hamzah (マレーシア工科大学教授)			
13:00～	発表1	アジアの保護地域憲章の考え方	マレーシア工科大学教授 Amran Hamzah
	発表2	アジアにおける保護地域のパートナーシップ	国際教養大学教授 熊谷 嘉隆
	発表3	アジアの保護地域のための協力的取組	前IUCNアジア事務所保護地域部長 Peter Shadie
14:30～	討議		

〈11月4日〉会場: JICA研究所

第1分科会 議長: Amran Hamzah (マレーシア工科大学教授)、Peter Shadie (前IUCNアジア事務所保護地域部長)			
9:00～	発表1	中国の保護地域	中国 環境保護部南京環境科学研究所 研究員 Gao Jun
	発表2	モルジブで最初の生物圏保護区	モルジブ 環境庁 調査官 Ahmed Shan
	発表3	ネパールの保護地域の概要 —ガバナンスと管理の観点から—	ネパール 国立公園野生生物保護部 自然保護官 Tulasi Ram Sharma
	発表4	日本におけるビジネス分野での生物多様性の取組み —経団連自然保護協議会の活動—	経団連自然保護協議会 事務局長 岩間 芳仁
	発表5	カンボジアの保護地域	カンボジア 環境省 自然保護保全行政管理総局 副局長 Meas Sophal
14:30～	アジアの保護地域における共有の課題についての討議		

第2分科会 議長: Marc Hockings (クイーンズランド大学准教授)、吉田正人 (筑波大学准教授)			
9:00～	発表1	ブキッティマ自然保護区と中央集水区自然保護区)の管理	シンガポール 中央自然保護区国立公園局 課長補佐 Wan Ming James Terence Gan
	発表2	スリランカの保護地域システム—概要、ガバナンス、管理—	スリランカ 環境省 環境管理官 Hapuarachchige Lathika Hapuarachchi
	発表3	タイの保護地域	タイ 国立公園野生生物保護部 森林専門官 Peeranuch Dulkul Kappelle
	発表4	日本における保護地域のガバナンスに関する 専門家会合の結果	東京農工大学教授 土屋 俊幸
	発表5	ブータンの自然環境保護と観光開発	ブータン ティンブー市森林公園事業部 レクリエーション・エコツーリズム部長 Karma Tsheribg
14:30～	アジアの保護地域における共有の課題についての討議		

〈11月5日〉会場: JICA研究所

全体会合 議長: 熊谷嘉隆(国際教養大学教授)、Seong ill Kim(ソウル大学教授)			
9:00～	分科会1報告		北海道大学准教授 庄子 康
	分科会2報告		岩手大学准教授 山本 清龍
	発表1	JICAの自然保護分野の国際協力	JICA地球環境部次長 池田 修一
	発表2	アジアにおける保護地域関わる法体系	国際教養大学准教授 豊田 哲也
	発表3	WCPAアジアにおける海洋・沿岸に関する取組の動向	(財)自然環境研究センター 主任研究員 日比野 浩平
14:30～	アジア国立公園会議についての討議		

〈11月7日〉会場: JICA研究所

全体会合 議長: 熊谷嘉隆(国際教養大学教授)、Seong ill Kim(ソウル大学教授)	
9:00～	議長総括とりまとめ